

## 第4編 男女共同参画に関する大学生意識調査

### I. 調査方法

調査対象：大東市内に所在する大学の学生

有効回収数：318人（女性83人 男性235人）

実施期間：平成29年11月14日～平成29年12月20日

### II. 調査結果のまとめ（集計・分析）

#### 1. あなた自身について

- ・女性3割、男性7割と男性が多い。

#### 2. 男女平等と性別役割分担意識について

##### （男女平等の意識）

- ・男女とも5割以上が平等としている項目は「学校・教育の場」、「自治会等の地域活動」、「職場」の3分野のみである。
- ・男女とも平等が5割未満の項目は、「家庭生活の場」、「雇用の機会や働く分野」、「政治・経済活動への参画」、「法律や制度」、「社会全体」である。

##### （家庭での男女の役割分担）

- ・「男は仕事、女は家庭」という考え方については、男女とも否定的な意見が多く、否定の割合は女性の方が高い（女性6割、男性5割）。また、男性では4割の肯定意見も存在する。

##### （家庭・育児の役割分担）

- ・将来の家事・育児の分担は、「夫婦で同じ程度の割合」が女性7割、男性5割と高いが、「妻」（女性2割、男性3割）も一定割合を占める。

##### （家事・育児の分担－①きっかけとなった人物）

- ・男女とも「母」の割合が最も高い（女性6割、男性5割）。「父」の割合は女性より男性の方が高い（女性2割、男性3割）。

##### （仕事の分担）

- ・将来の仕事の分担は、女性は「夫婦で同じ程度の割合」（6割）、「どちらかと言えば夫」（2割）で、男性は「主に夫」（3割）、「夫婦で同じ程度の割合」（3割）と男女で考え方に差がみられる。

**(仕事の分担－①きっかけとなった人物)**

- ・女性は「母」の割合が最も高く（女性5割、男性3割）、男性は「父」の割合が最も高い（女性4割、男性5割）。

**(介護の分担)**

- ・将来の介護の分担は、「夫婦で同じ程度の割合」が女性6割、男性5割と高い。

**(介護の分担－①きっかけとなった人物)**

- ・男女とも「母」の割合が最も高い（女性4割、男性3割）。

**(仕事選択で重視する点)**

- ・仕事を選ぶときに重視することは、女性は「職場の雰囲気がよいこと」（6割）、「自分の興味や好み」（6割）を優先し、「収入が安定していること」（5割）を選択要素に挙げている。男性は「収入が安定していること」（5割）、「職場の雰囲気がよいこと」（5割）、「自分の興味や好み」（4割）であり、男性と女性では重視するポイントがやや異なる。また、女性は「育児や介護に対する支援制度が整っていること」に2割が関心があるが、男性の関心は低い。

**(女性が職業を持つこと)**

- ・女性が職業を持つことに対して、「結婚や出産などで職業をやめても、再び職業を持つほうがよい」は女性5割だが、男性は2割である。「女性の思うとおりにするのがよい」は男性5割だが、女性は3割である。男女で意識の差が顕著である。女性が職業を持つことを否定する意見はほとんどない。

**(女性が職業を持つこと－①肯定的回答の理由)**

- ・女性は自立したほうがよいと思う割合が最も高く、男性は女性の能力を活用したほうがよいと思う割合が最も高い。

**(女性が職業を持つこと－②否定的回答の理由)**

- ・男女とも「家庭との両立の難しさ」が最も割合が高い。「女性は家庭を優先すべき」との考えが女性はいないのに対し、男性は1割ある。また女性は「労働条件に男女差がある」との理由が男性の2倍となっている。

**(育児休業の取得)**

- ・将来の育児休業の取得は、女性は7割に対し男性は4割である。また、男性の4割は「わからない」と回答している。

#### (育児休業の取得—①取得しない理由)

- ・女性の5割が評価や待遇に不安があることを理由としているが、男性は収入が減ることや、職場の人に負担がかかることが5割以上を占めている。

### 3. デートDVについて

- ・「デートDV」の認知率は女性6割、男性5割であるが、「知らない」との意見は男女とも3割程度ある。
- ・恋人との関係について、男女とも5割が「思いどおりにならない」と感じている。また、男性より女性の方が「束縛されている」と感じているが、「優位である」とも感じている。
- ・本人との間で起こることについて、デートDVと判断した割合が男女とも6割以上の項目は、「携帯番号を勝手に見たり友だちの番号やアドレスを消す」、「家族や友だちとのつきあいや連絡を監視したり制限する」、「キスや性的な行為を同意なく一方的にする」、「性的な画像や動画（写メ）などを勝手に撮ったりSNSなどに載せたりする」、など多数あり、認識の高さが伺える。  
 一方で、「自分を常に優先してほしいと言う」、「「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする」、「体型のことをあれこれ言う」、「常に相手の考えを聞かずに物事を計画したり決めたりする」などの自己中心的な事柄については、デートDVとしての認識が低い。
- ・相手にされた経験については、各項目で2割未満となっているが、「自分を常に優先してほしいと言う」、「しょっちゅう電話やメールをしてきたりどこで誰と会っているか繰り返し聞く」、「言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる」、「「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする」、「体型のことをあれこれ言う」は男女とも1割程度ある。
- ・相手にしたことがある経験については、全体的に男女とも低いですが、女性では「自分を常に優先してほしいと言う」、「しょっちゅう電話やメールをしてきたりどこで誰と会っているか繰り返し聞く」、「言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる」、「「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする」が7%程度ある。
- ・デートDVの経験者の5割以上は男女とも相談していない。相談した割合は、

男性は女性の半分以下である。男女とも「友人、知人、近所の人」の割合が最も高い。

- ・相談しなかった理由として、男女とも「相談するほどたいしたことでもない思った」が最も高い。次いで女性は「自分さえ我慢すればよいと思った」、男性では「自分に非があると思った」となっている。

#### 4. 用語について

##### (男女共同参画に関する言葉の認知率)

- ・「男女雇用機会均等法」、「セクハラ（セクシュアル ハラスメント）」、「リケジョ」の認知率が高い。
- ・「女子差別撤廃条約」、「女性活躍推進法」、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」は、男女とも認知率が低い。

##### (男女共同参画を推進するために必要なこと)

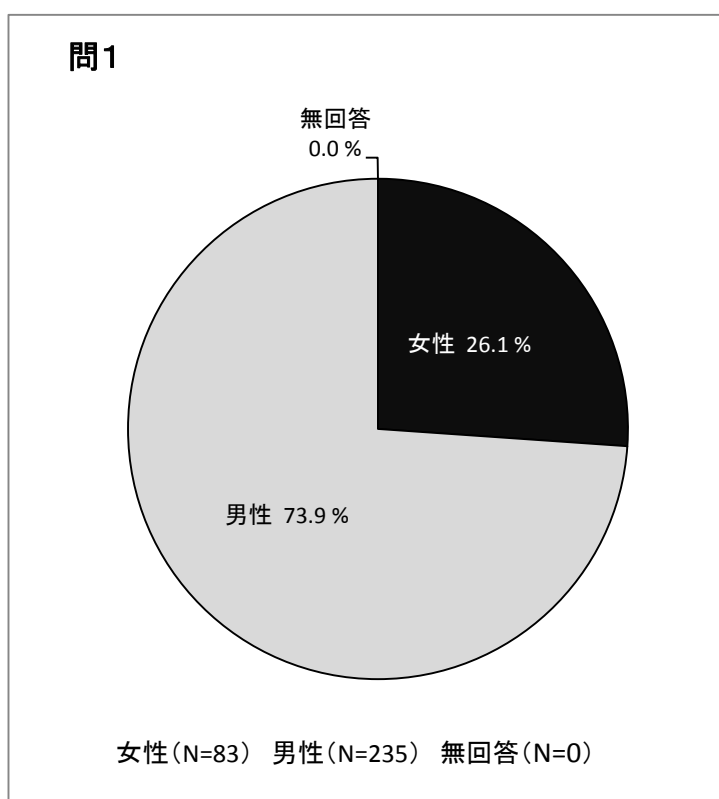
- ・男女とも「子どものころから家庭で「男だから～」「女だから～」といった性別による固定観念をイメージさせるような言葉をかけないようにする」が最も高い。
- ・女性は、「職場において賃金や昇進などの男女の格差をなくす」、「長時間労働を是正し、家事・育児に関わる時間をつくる」など直接かかわる項目が高い。
- ・男性は、「法律や制度を改める」、「社会通念・慣習・しきたりを改める」、「長時間労働を是正し、家事・育児に関わる時間をつくる」も挙げている。

### Ⅲ. 調査集計結果

#### 1. あなた自身について

問1 あなたの性別を記入してください。

女性が26.1%、男性が73.9%と男性が多い。



## 2. 社会における平等の程度について

問2 次の分野において、男女がどの程度、平等になっていると思われますか。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』と感じる割合が男女平均で30%以上である分は、以下のとおりである。

「政治・経済活動への参画」 (平均 52.4% 女性 57.9% 男性 46.8%)

「雇用の機会や働く分野」 (平均 49.8% 女性 49.4% 男性 50.2%)

「社会全体」 (平均 35.8% 女性 42.1% 男性 29.4%)

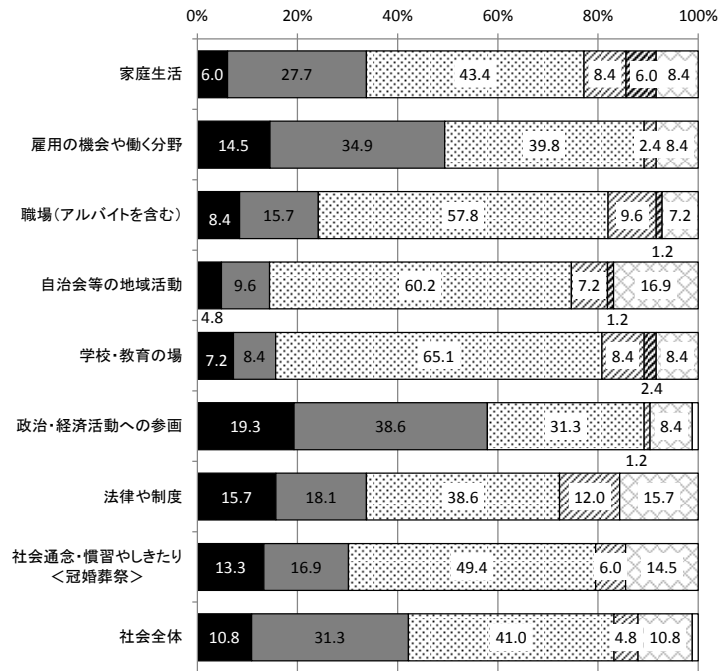
また、男女を比較して、『男性が優遇されている』と感じる割合が女性の方が  
多い項目は以下のとおりである。

「家庭生活」 (女性 33.7% 男性 16.2%)

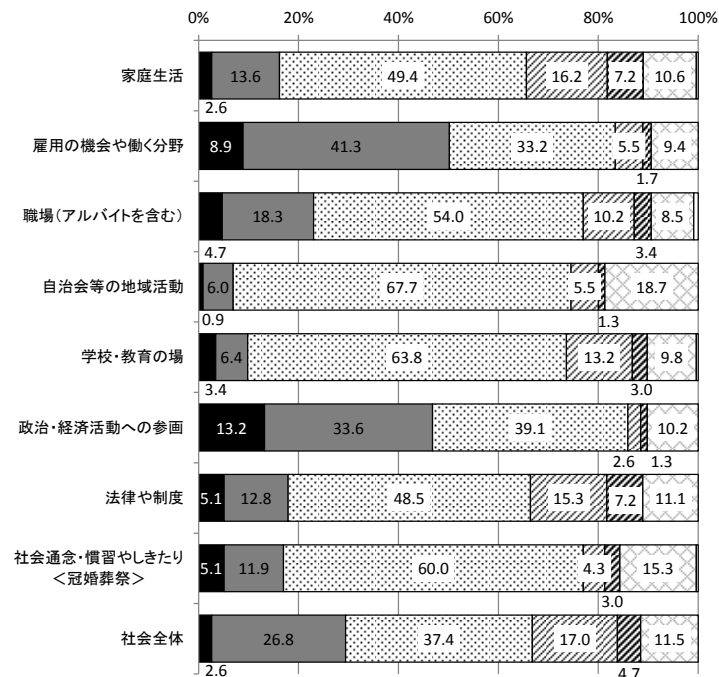
「法律や制度」 (女性 33.8% 男性 17.9%)

「社会通念・慣習やしきたり (冠婚葬祭)」 (女性 30.2% 男性 17.0%)

問2



女性(N=83)



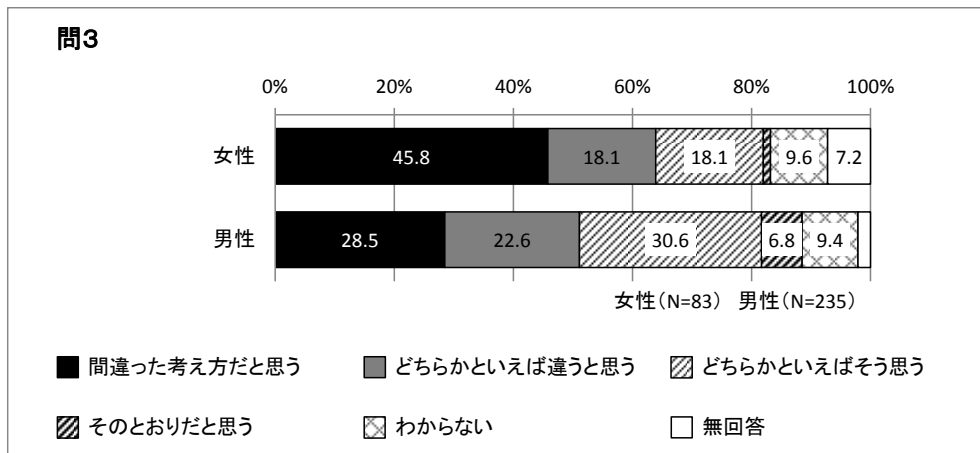
男性(N=235)

- 男性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答

### 3. 仕事・家事・育児などのことについて

問3 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担の考え方について、あなた自身はどう思いますか。

「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担については、「間違った考え方だと思う」と「どちらかといえば違うと思う」を合わせた否定的な割合は、女性63.9%、男性51.1%で女性が12.8ポイント高い。

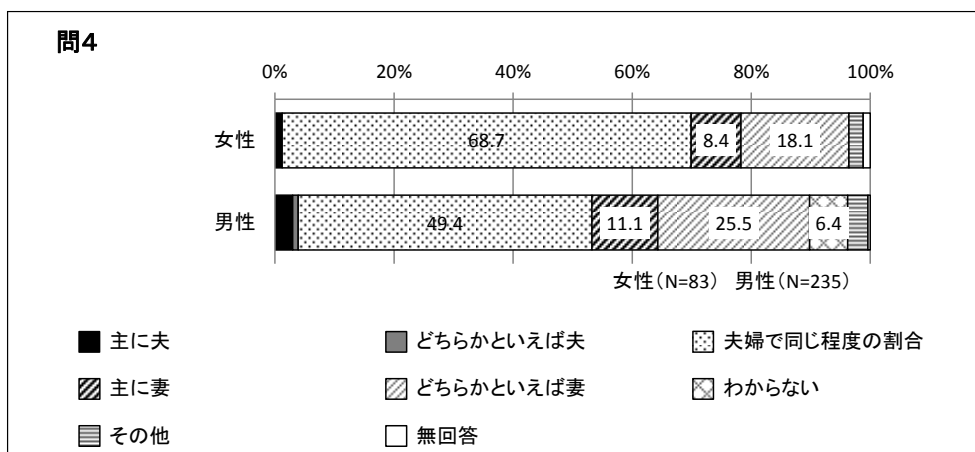




問4 あなたが将来、家庭を持った場合、家事・育児は誰がすることが望ましいと思いますか。

「夫婦で同じ程度の割合」を望んでいるのは、女性 68.7% 男性 49.4%と女性が 19.3 ポイント高い。

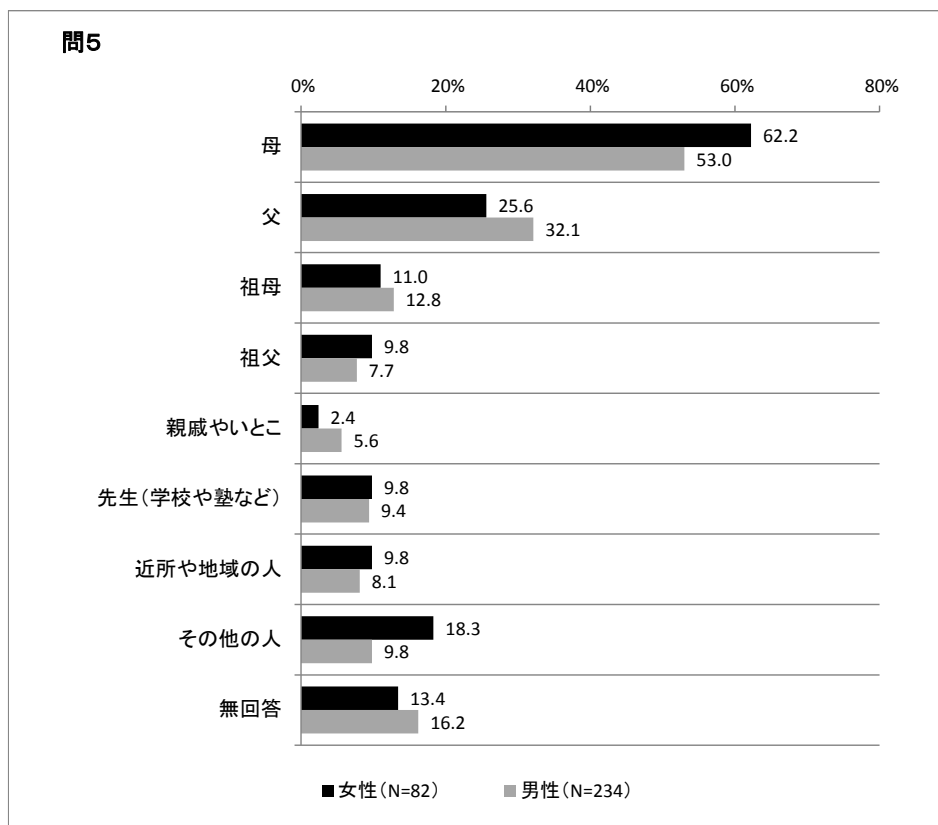
「どちらかといえば妻」では、女性 18.1% 男性 25.5%と、男性が 7.4 ポイント高い。



大学生 問4 その他回答
その時代による
その都度できる人
できるかぎり夫もてつだう
どっちでもよい
手の空いている方や気づいた方
出勤日時による
相談の後、決定
都合のいい人がする
働いてない方
働く人は3割ぐらい

問5 問4で回答された考え方のきっかけとなったのは、誰の言葉や行為ですか。（あてはまるものすべてに○）

男女とも「母」が最も高く、女性 62.2%、男性 53.0%で、女性は男性よりも 9.2 ポイント高い。次に高い「父」は、女性 25.6%、男性 32.1%で男性が 6.5 ポイント高い。



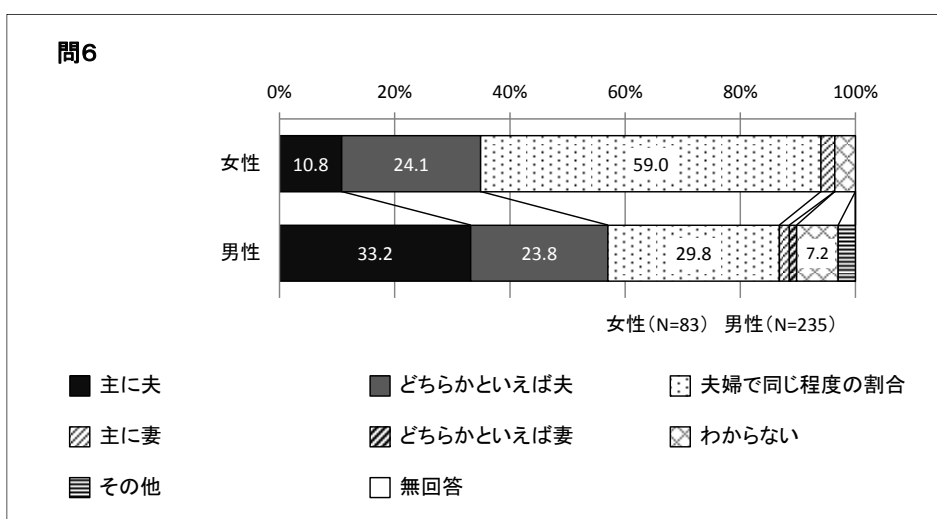
大学生 問5 その他回答	
TV (他 5 件)	周りの人々 (他 1 件)
ドラマ (他 2 件)	書物
ネット (他 2 件)	色々
バイト先の社員	世間 (他 2 件)
家庭によると思う	漫画などの作者
私	友達の家系
社会 (他 2 件)	

問6 あなたが将来、家庭を持った場合、仕事は誰がすることが望ましいと思いますか。

女性では「主に夫」は10.8%、「どちらかといえば夫」24.1%と合わせた34.9%が『夫』としている。

男性では「主に夫」が33.2%、「どちらかといえば夫」23.8%で、合わせて57.0%が『夫』としており、女性よりも22.1ポイント高い。

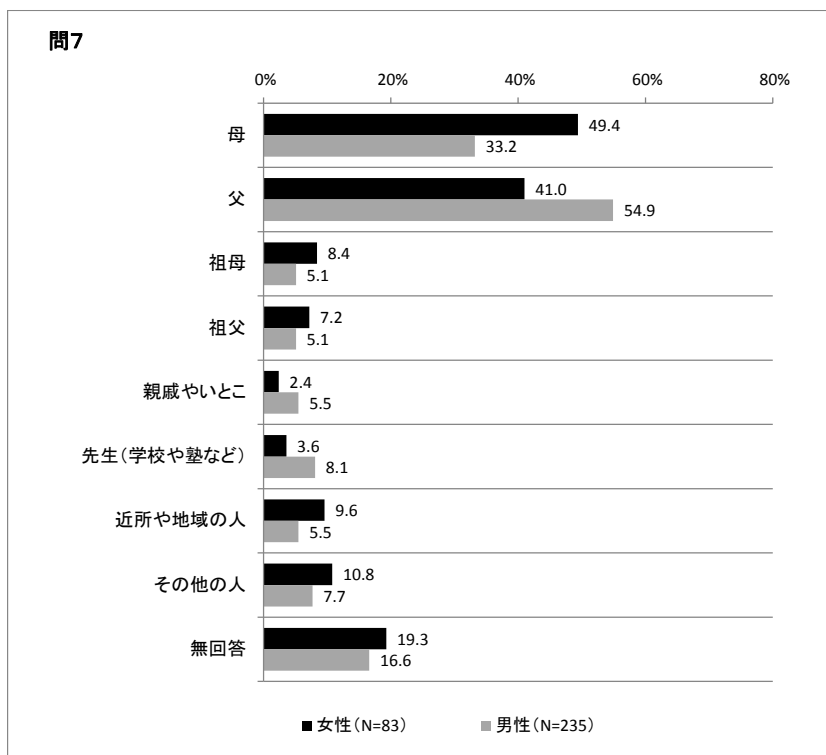
また、女性で最も高い「夫婦で同じ程度の割合」(59.0%)については、男性は29.8%であり、女性より29.2ポイント低い。



大学生 問6 その他回答
その家の収入等で考える
できる人がする
どっちでもいい (他1件)
都合のいい人がする
夫婦で決めるべき

問7 問6で回答された考え方のきっかけとなったのは、誰の言葉や行為ですか。(あてはまるものすべてに○)

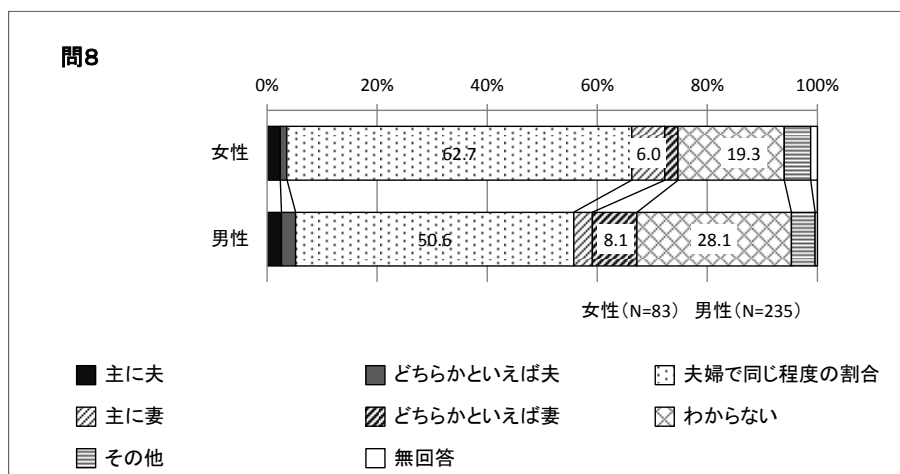
女性では「母」49.4%が最も高く、次いで「父」41.0%である。  
 男性では「父」54.9%が最も高く、次いで「母」33.2%である。  
 女性では「母」、男性では「父」の影響が強い。



大学生 問7 その他回答
TV (他3件)
ネット
周りの人々
書物
色々
世間 (他1件)
体が強いから
友達 (他1件)

問8 あなたが将来、家庭を持った場合、介護は誰がすることが望ましいと思いますか。

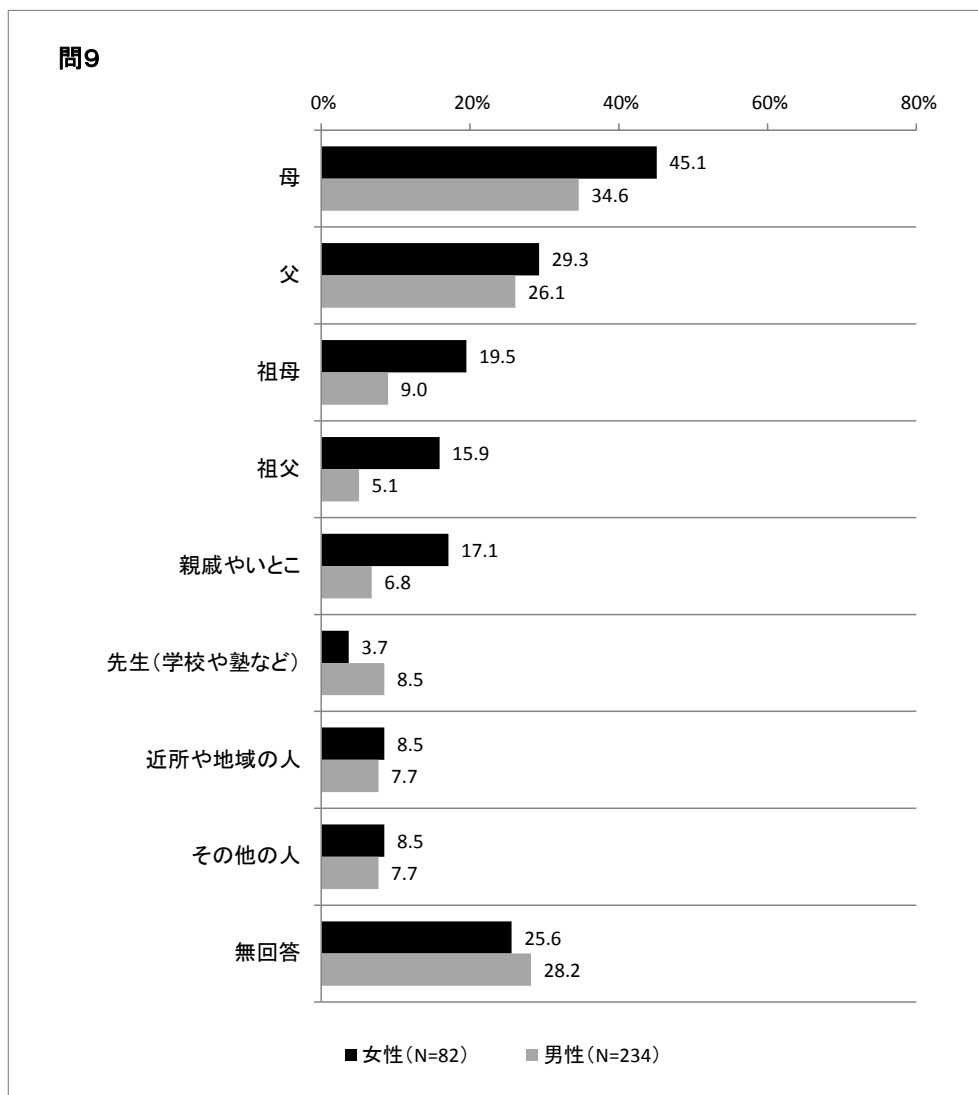
男女とも「夫婦で同じ程度の割合」が最も高く、女性 62.7%、男性 50.6%、であるが、男性は女性よりも 12.1 ポイント低い。



大学生 問8 その他回答
しんせき
できる人がする
ヘルパー (他 1 件)
家族全員で負担
介護士 (他 2 件)
介護施設へ入会する
各親を各自で
自分の親なら自分、相手の親なら相手
専門職
相談
誰時間あれば

問9 問8で回答された考え方のきっかけとなったのは、誰の言葉や行為ですか。(あてはまるものすべてに○)

女性では「母」45.1%が最も高く、次いで「父」29.3%である。  
男性では「母」34.6%が最も高く、次いで「父」26.1%である。



大学生 問9 その他回答	
TV (他3件)	色々
社会から	世間
周りの人々	報道
書物	

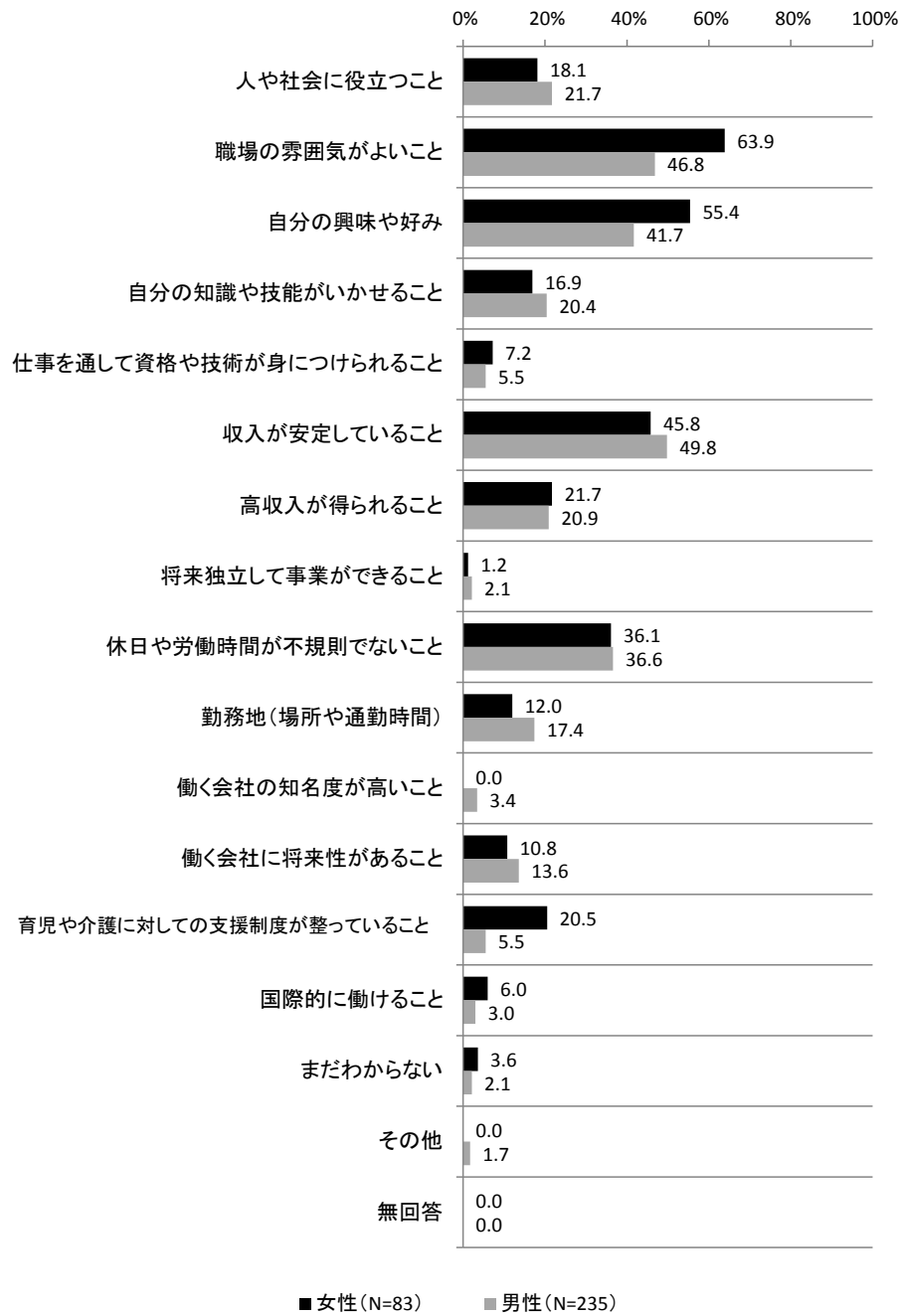
問10 あなたが、仕事を選ぶときに重視することは何ですか。(あてはまるものに○は3つまで)

女性では、「職場の雰囲気がよいこと」63.9%、「自分の興味や好み」55.4%、「収入が安定していること」45.8%、「休日や労働時間が不規則でないこと」36.1%となっている。

男性では、「収入が安定していること」49.8%、「職場の雰囲気がよいこと」46.8%、「自分の興味や好み」41.7%、「休日や労働時間が不規則でないこと」36.6%となっている。

「育児や介護に対する支援制度が整っていること」の重視については、女性が20.5%に対して、男性は5.5%で女性より15.0ポイント低い。

問10



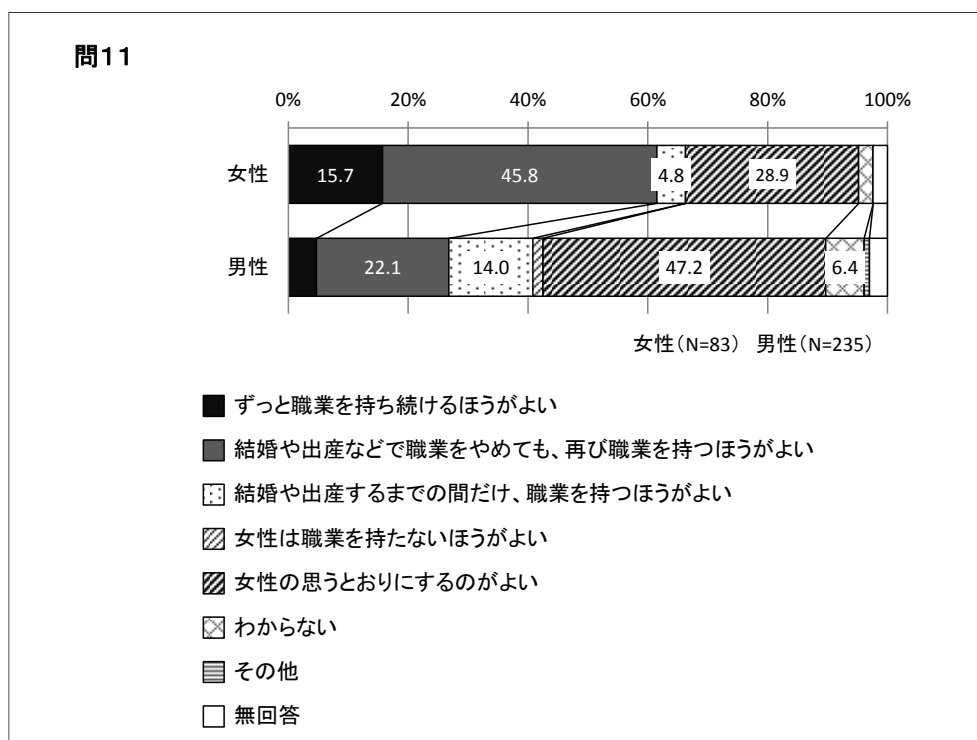
大学生 問10 その他回答
ホワイト企業
労基法を守尊しているか
労働法を守っているかどうか



問11 女性が職業を持つことについて、あなた自身はどのように考えますか。

女性では、「結婚や出産などで職業をやめても、再び職業を持つほうがよい」45.8%が最も高く、次いで「女性の思うとおりにするのがよい」28.9%、「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」15.7%となっている。

男性では、「女性の思うとおりにするのがよい」47.2%が最も高く、次いで「結婚や出産などで職業をやめても、再び職業を持つほうがよい」22.1%、「結婚や出産するまでの間だけ、職業を持つほうがよい」14.0%となっている。



大学生 問11 その他回答

結婚や出産等で職業をやめるが、そのあとは女性の思う通りにしたらしい

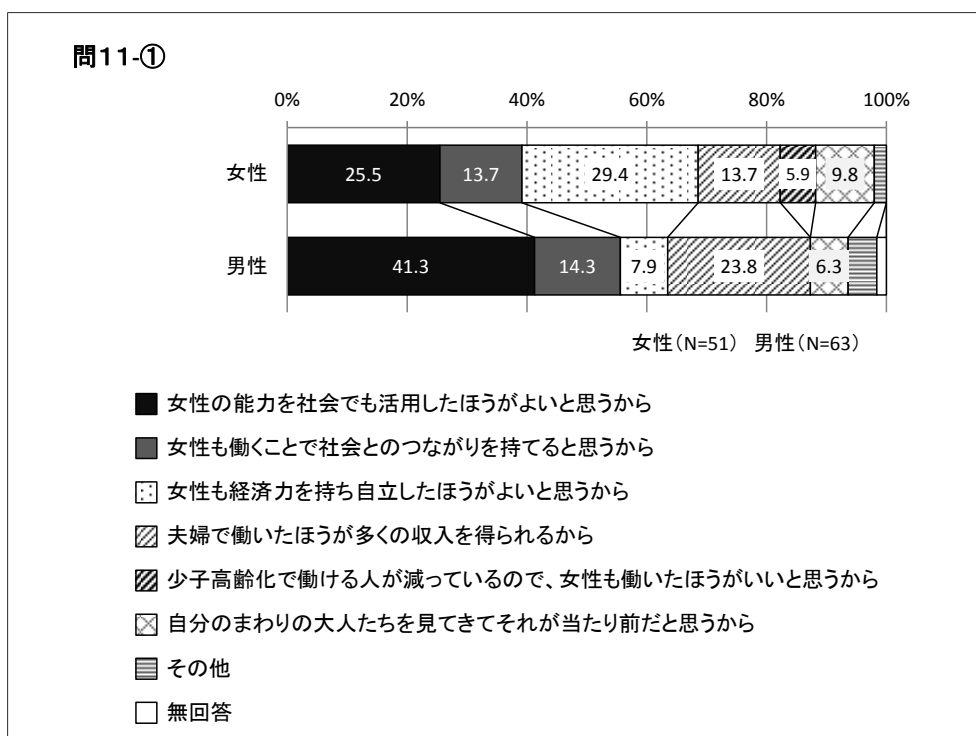
問11-① それはどのような理由からですか。

【問11で「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」や「結婚や出産などで職業をやめても、再び職業を持つほうがよい」と回答した人】

女性では、「女性も経済力を持ち自立したほうがよいと思うから」29.4%が最も高く、次いで「女性の能力を社会でも活用したほうがよいと思うから」25.5%、「女性も働くことで社会とのつながりを持てると思うから」13.7%、「夫婦で働いたほうが多くの収入を得られるから」13.7%となっている。

男性では、「女性の能力を社会でも活用したほうがよいと思うから」41.3%が最も高く、次いで「夫婦で働いたほうが多くの収入を得られるから」23.8%、「女性も働くことで社会とのつながりを持てると思うから」14.3%となっている。

女性で最も高い「女性も経済力を持ち自立したほうがよいと思うから」29.4%に対して、男性は7.9%で女性より21.5ポイントも低い。



大学生 問11-① その他回答

経済面で働くのは大事

結婚しないから

結婚や出産時は育児休業すべきだが、その後は休業したとの理由や女性の理由で職が持てないのは差別と考えられるから

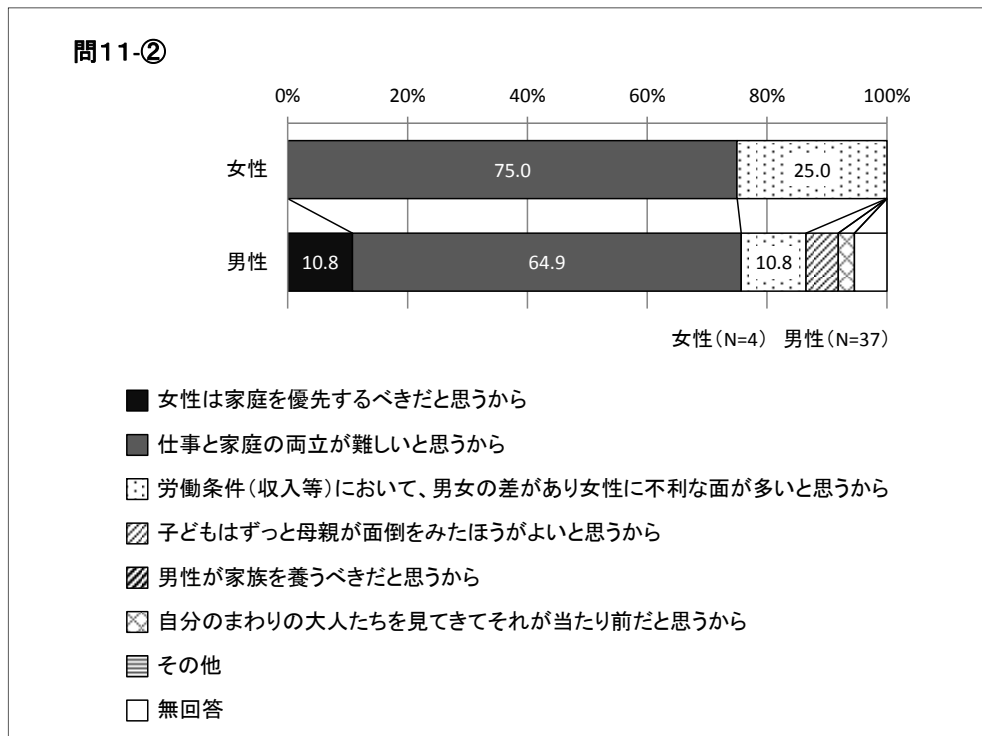
日本の男女に差別が世界的に見てもあるから

問11-② それはどのような理由からですか。

【問11で「結婚や出産するまでの間だけ、職業を持つほうがよい」や「女性は職業を持たないほうがよい」と回答した人】

女性が職業を持つことに否定的な理由は、男女とも「仕事と家庭の両立が難しいと思うから」(女性 75.0% 男性 64.9%) が最も高く、次に「労働条件(収入等)において、男女の差があり女性に不利な面が多いと思うから」(女性 25.0% 男性 10.8%) をあげているが、男性は女性より 14.2 ポイント低い。

また、「女性は家庭を優先するべきだと思うから」は男性が 1 割いるのに対し女性はいない

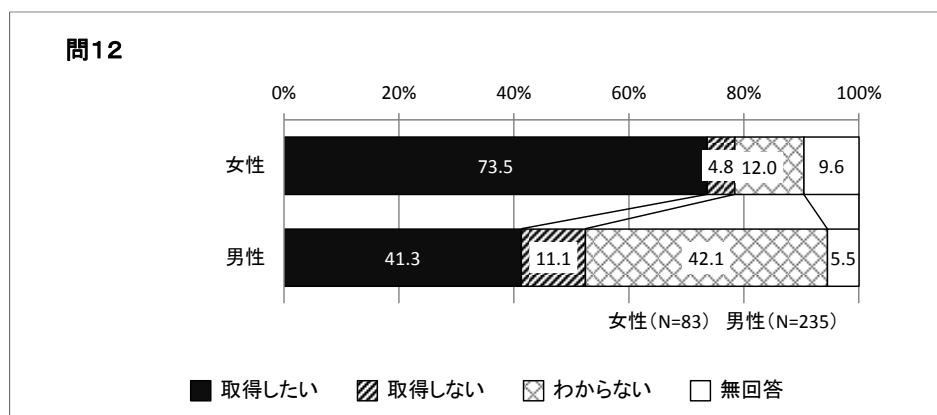


## 問12 あなたは将来育児休業を取得したいですか。

女性では「取得したい」73.5%、「わからない」12.0%である。

男性では「取得したい」41.3%、「わからない」42.1%である。

女性は「取得したい」が男性よりも32.2ポイント高く、「わからない」は男性より30.1ポイント低い。

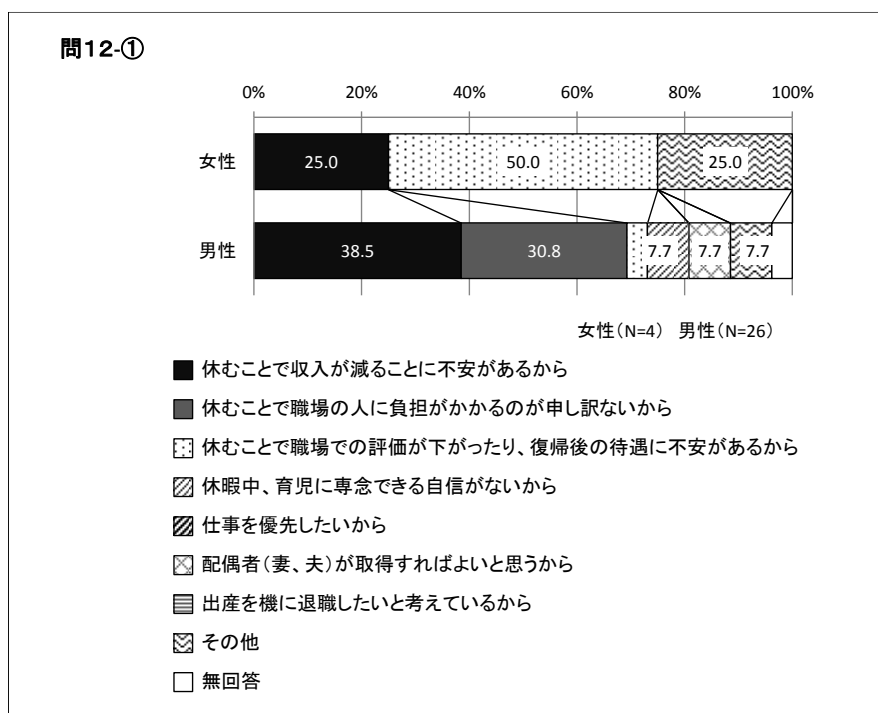


問12-① それはどのような理由からですか。

【問12で「取得しない」と回答した人】

女性では「休むことで職場での評価が下がったり、復帰後の待遇に不安があるから」50.0%、「休むことで収入が減ることに不安があるから」25.0%である。

男性では「休むことで収入が減ることに不安があるから」38.5%、「休むことで職場の人に負担がかかるのが申し訳ないから」30.8%である。

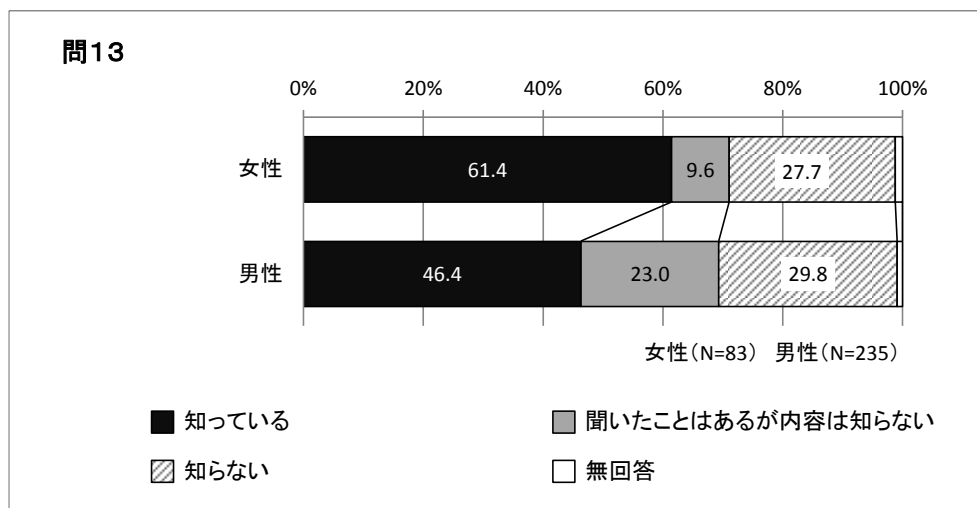


大学生 問12-① その他回答
好きなようにしたらいい
子ども産まないから
取得したいができないというのがげんじょう。休む→「おかしいこと」という考え方があるので、そこを直さないかぎりは何ともならない
相手を尊重したい
復帰する時や休みをもらう時に、周りから嫌味などを言われるという話しをよくきくから

## 4. デートDVについて

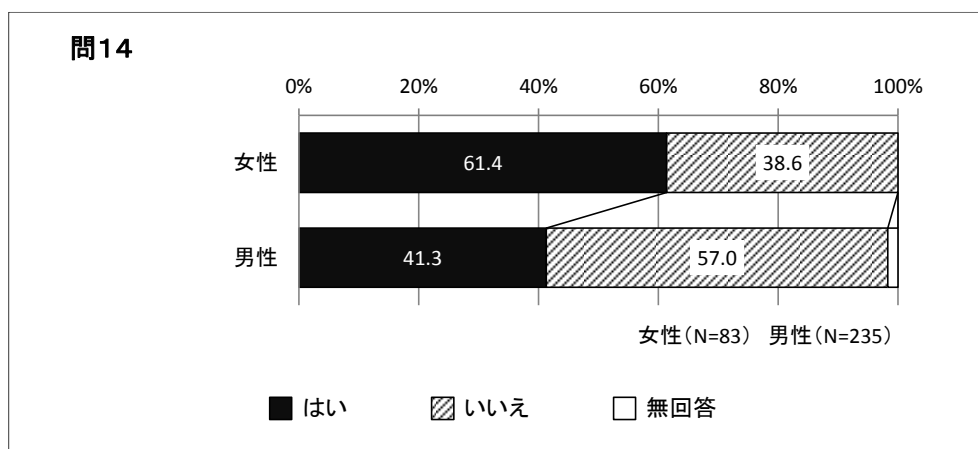
問13 あなたは、「デートDV」について知っていますか。

「知っている」の割合（女性 61.4% 男性 46.4%）では、男性の認知率が低い、「聞いたことはあるが内容は知らない」（女性 9.6% 男性 23.0%）を合わせると、女性 71.0%、男性 69.4%となり、ほぼ均衡している。



問14 あなたは現在、恋人(交際相手)がいますか。または恋人(交際相手)がいましたか。

女性では「はい」が 61.4%、男性では 41.3%で、女性の方が男性よりも 20.1ポイント高い。



問14-① あなたは、その恋人との関係において、思いどおりにならないと感じることがありますか。またはありましたか。

【問14で「はい」と回答した人】

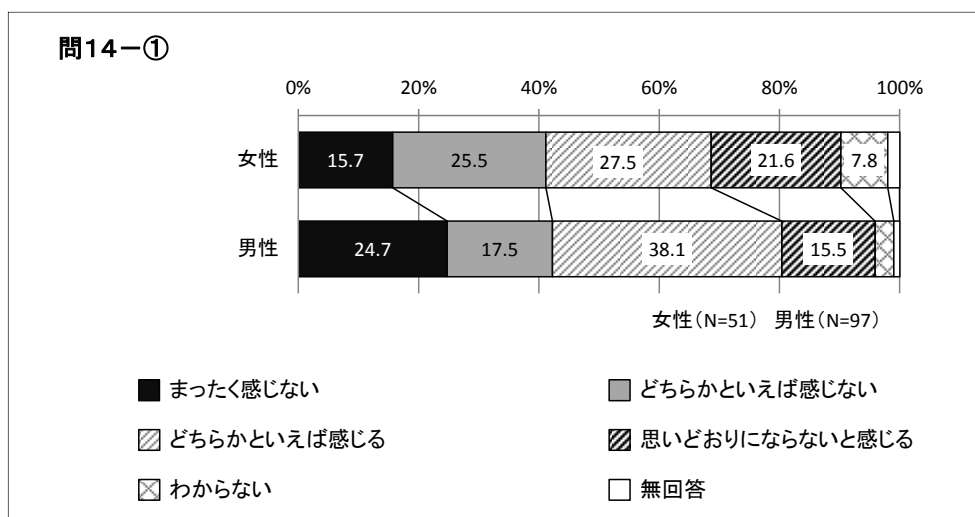
女性では「まったく感じない」15.7%、「どちらかといえば感じない」25.5%を合わせた『感じない』は41.2%である。

男性では「まったく感じない」24.7%、「どちらかといえば感じない」17.5%を合わせた『感じない』は42.2%である。

女性では「どちらかといえば感じる」27.5%、「思いどおりにならないと感じる」21.6%を合わせた『感じる』は49.1%である。

男性では「どちらかといえば感じる」38.1%、「思いどおりにならないと感じる」15.5%を合わせた『感じる』は53.6%である。

男女とも、『感じる』の割合が高い。



問14-② あなたは、その恋人に束縛されていると思いますか。または思いましたか。

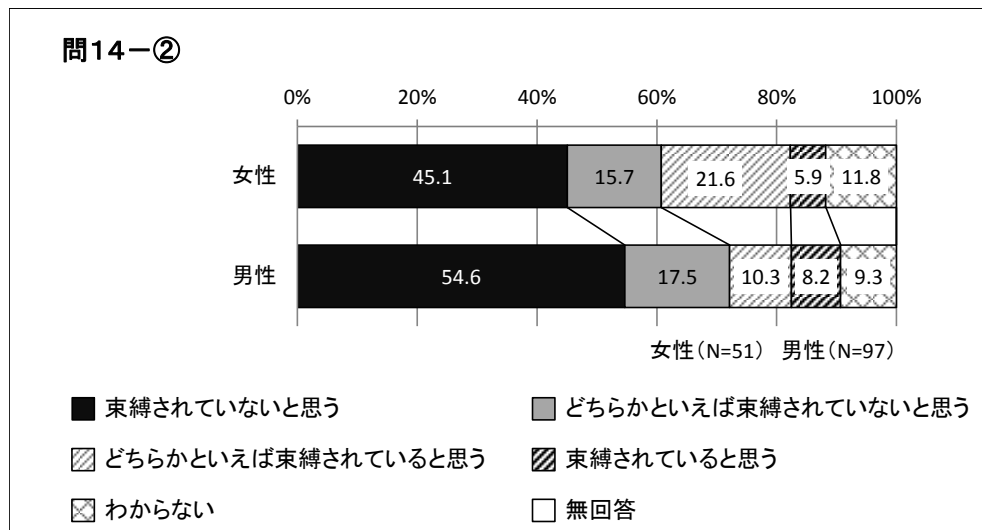
【問14で「はい」と回答した人】

女性では「束縛されていないと思う」45.1%、「どちらかといえば束縛されていない」15.7%を合わせた60.8%が束縛されていないと思っている。

男性では「束縛されていないと思う」54.6%、「どちらかといえば束縛されていない」17.5%を合わせた72.1%が束縛されていないと思っている。

女性の方が男性よりも束縛されていないと思う割合が11.3ポイント低い。

一方、「束縛されていると思う」と「どちらかといえば束縛されていると思う」を合わせると、女性は27.5%、男性は18.5%で、女性の方が男性より9.0ポイント高い。

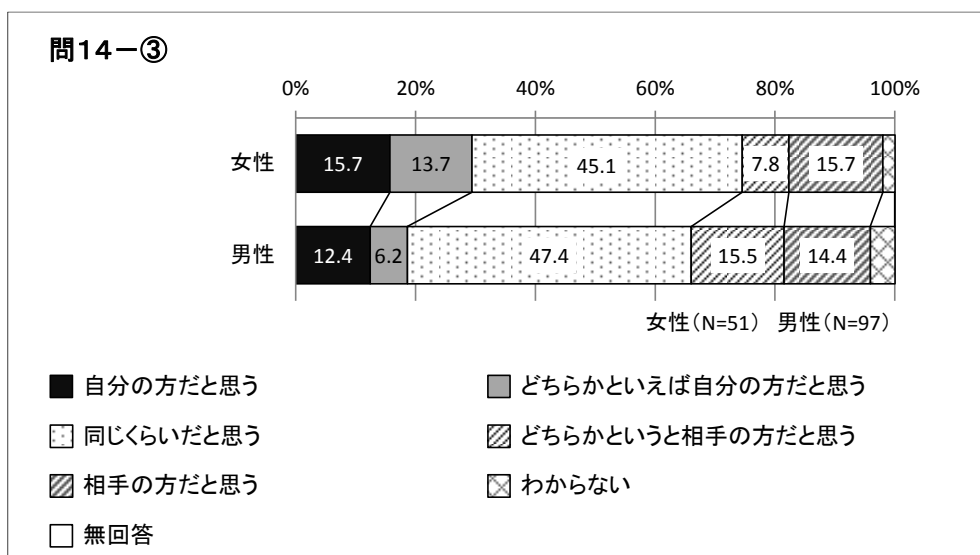




問14-③ あなたとその恋人との関係は、あなたの判断ではどちらが強い(優位である)と思いますか。または、思いましたか。

【問14で「はい」と回答した人】

男女とも、「同じくらいだと思う」(女性 45.1% 男性 47.4%)が最も多い。「自分の方だと思う」と「どちらかといえば自分の方だと思う」を合わせた数値は、女性 29.4%、男性 18.6%で、女性の方が男性より 10.8 ポイント高い。



問15(1) 恋人との間で次のようなことが行われた場合、あなたはどのように思いますか。

男女ともデートDVと判断した割合が60%以上の項目は以下のとおり。

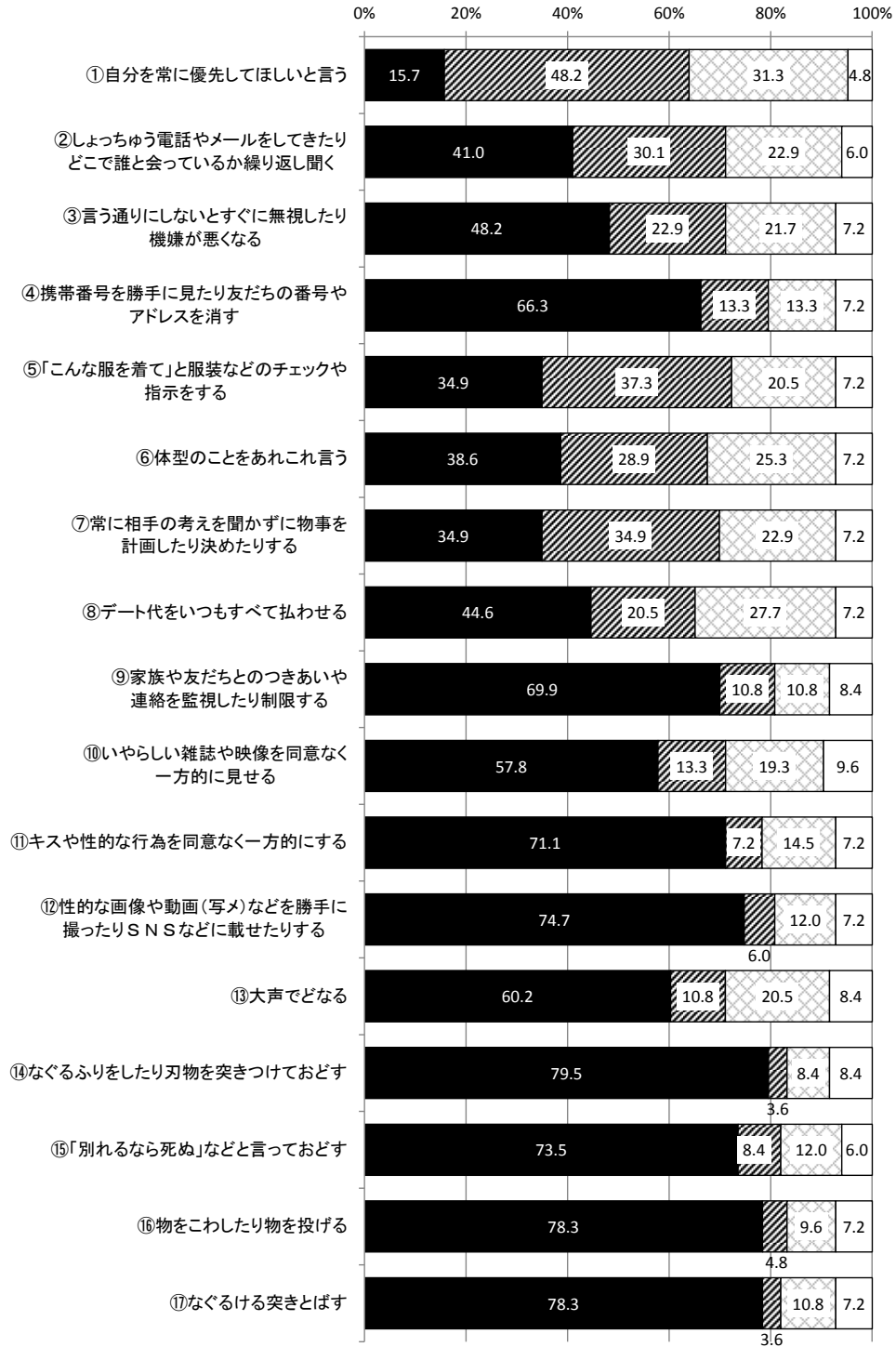
- ④ 携帯番号を勝手に見たり友だちの番号やアドレスを消す  
(女性66.3% 男性60.0%)
- ⑨ 家族や友だちとのつきあいや連絡を監視したり制限する  
(女性69.9% 男性64.7%)
- ⑪ キスや性的な行為を同意なく一方的にする (女性71.1% 男性66.4%)
- ⑫ 性的な画像や動画(写メ)などを勝手に撮ったりSNSなどに載せたりする  
(女性74.7% 男性71.1%)
- ⑬ 大声でどなる (女性60.2% 男性60.9%)
- ⑭ なぐるふりをしたり刃物を突きつけておどす (女性79.5% 男性78.7%)
- ⑮ 「別れるなら死ぬ」などと言っておどす (女性73.5% 男性68.9%)
- ⑯ 物をこわしたり物を投げる  
(女性78.3% 男性77.0%)
- ⑰ なぐるける突きとばす  
(女性78.3% 男性78.7%)

また、男女ともデートDVと判断した割合が40%未満の項目も4つ存在する。

- ① 自分を常に優先してほしいと言う (女性15.7% 男性13.2%)
- ② 「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする  
(女性34.9% 男性18.7%)
- ③ 体型のことをあれこれ言う  
(女性38.6% 男性29.4%)
- ④ 常に相手の考えを聞かずに物事を計画したり決めたりする  
(女性34.9% 男性26.0%)

全体的に女性の方が男性よりも、デートDVと判断した割合が高い。

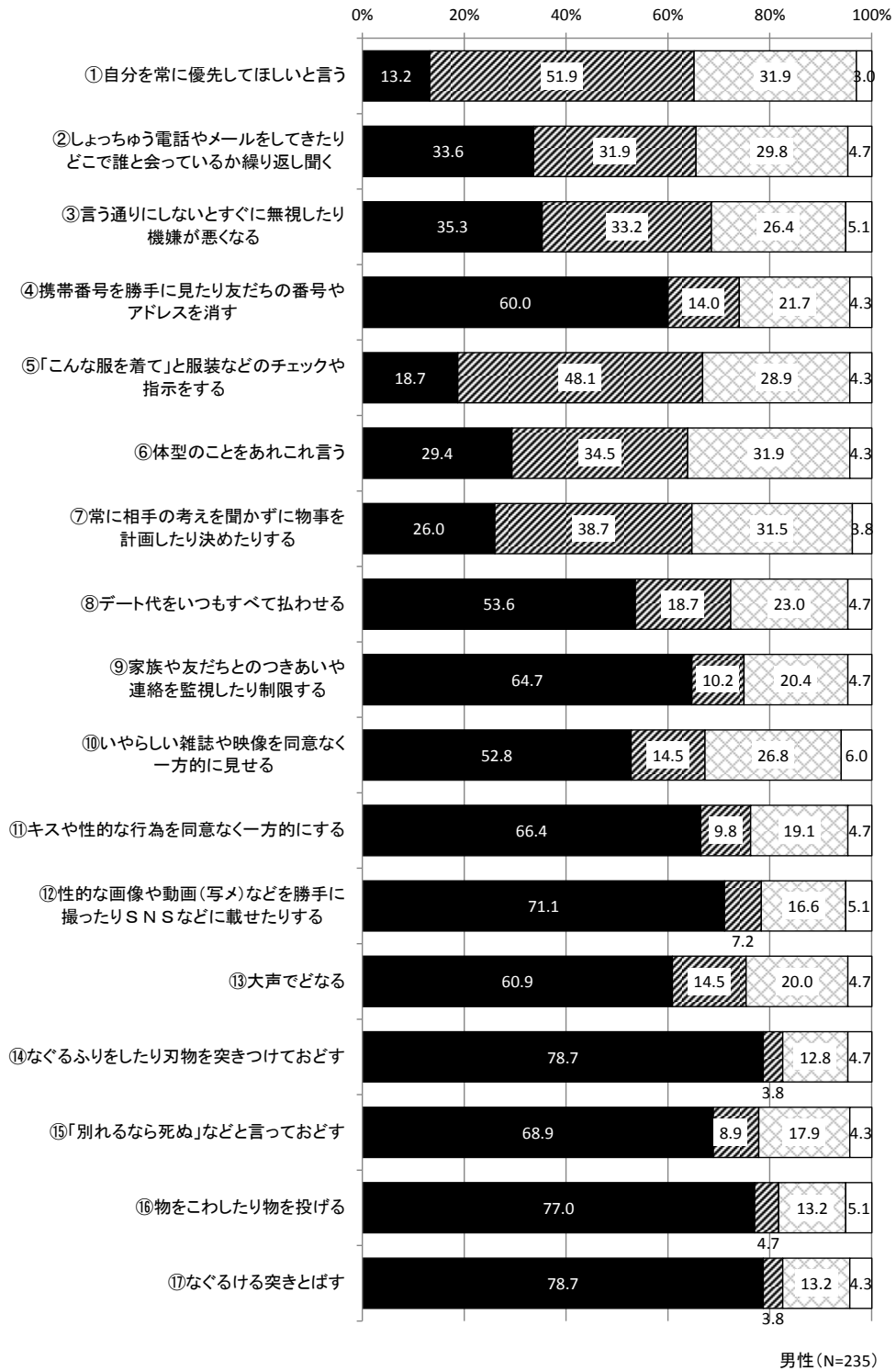
問15(判断)



女性(N=83)

■ デートDVだと思う    ▨ デートDVではないと思う    ▩ わからない    □ 無回答

問15(判断)



男性(N=235)

■ デートDVだと思う    ▨ デートDVではないと思う    ◻ わからない    □ 無回答

問15(2) 恋人との間で次のようなことを実際に相手にしたり、された経験がありますか。

「相手にされたことがある」について、男女ともに10%を超える項目は、

- ①「自分を常に優先してほしいと言う」 (女性18.1% 男性13.6%)
- ②「しょっちゅう電話やメールをしてきたりどこで誰と会っているか繰り返し聞く」 (女性15.7% 男性12.3%)

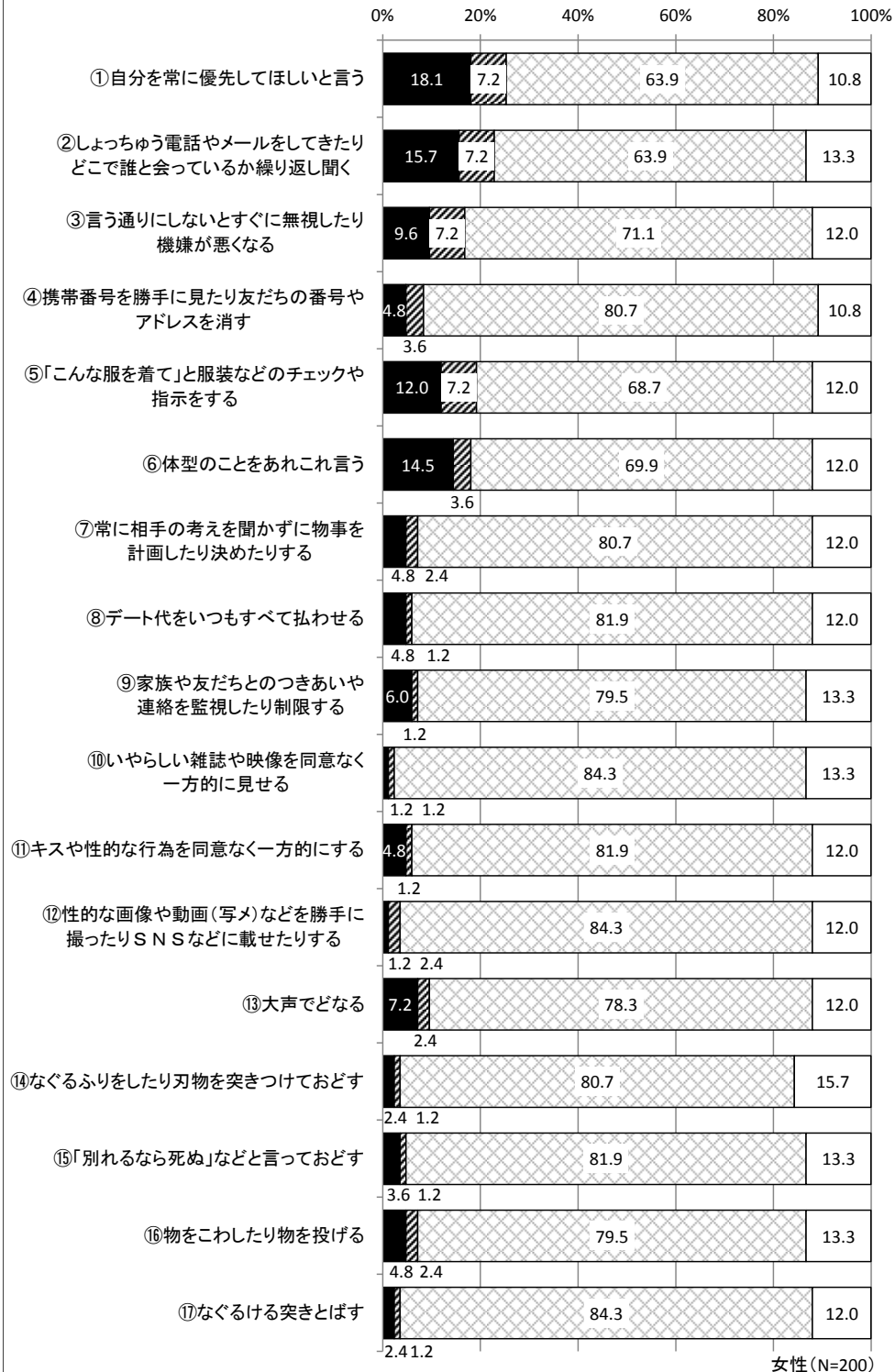
また、女性のみ10%を超える項目は、

- ⑤「「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする」 (女性12.0% 男性7.2%)
- ⑥「体型のことをあれこれ言う」 (女性14.5% 男性7.7%)

男性のみ10%を超える項目は、「③言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる」(女性9.6% 男性14.0%)で、全体的に比較して女性が被害を受ける割合が高い。

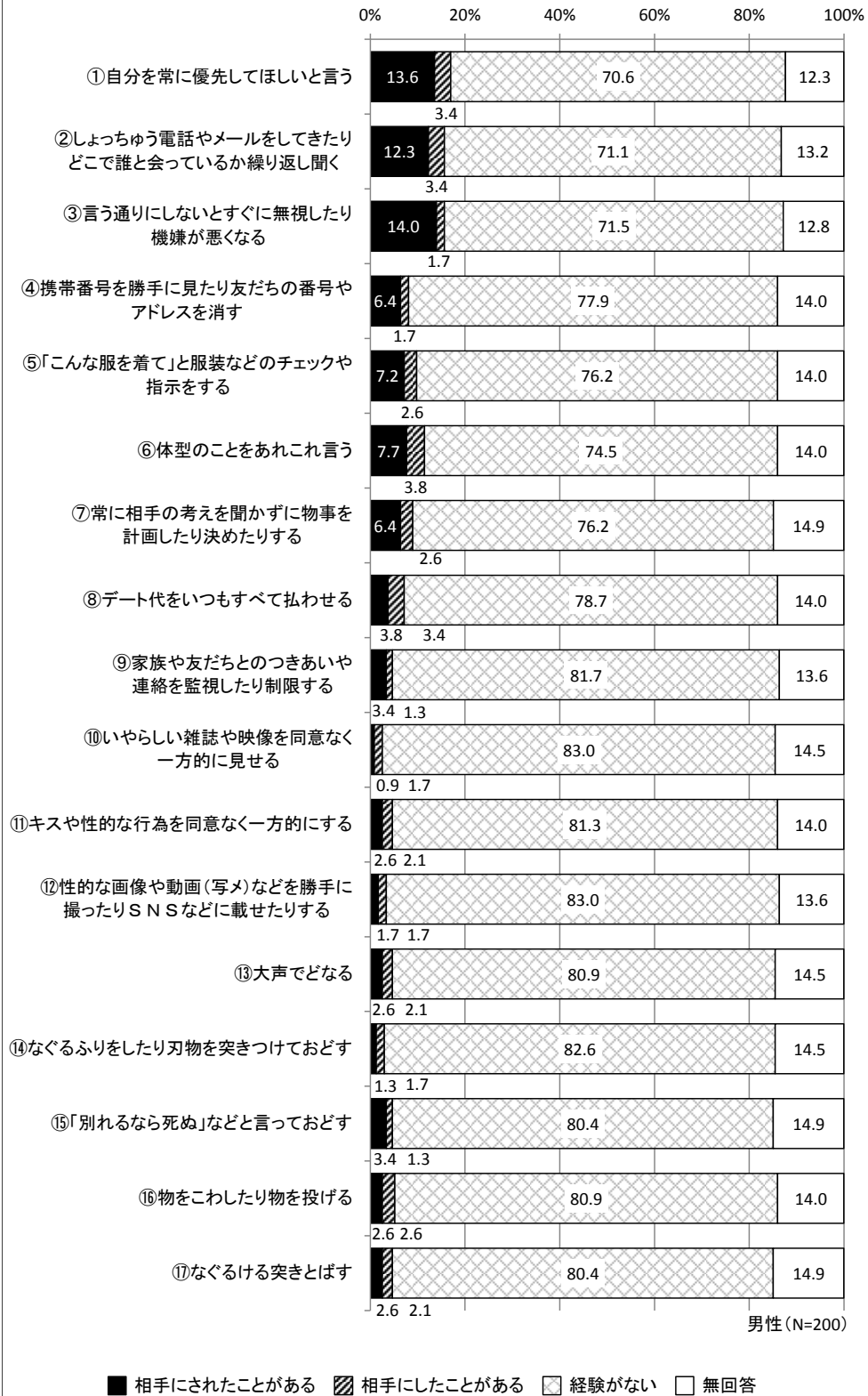
男女ともに、「相手にしたことがある」で10%を超える項目はない。

問15(経験)



■ 相手にされたことがある    ▨ 相手にしたことがある    □ 経験がない    □ 無回答

問15(経験)

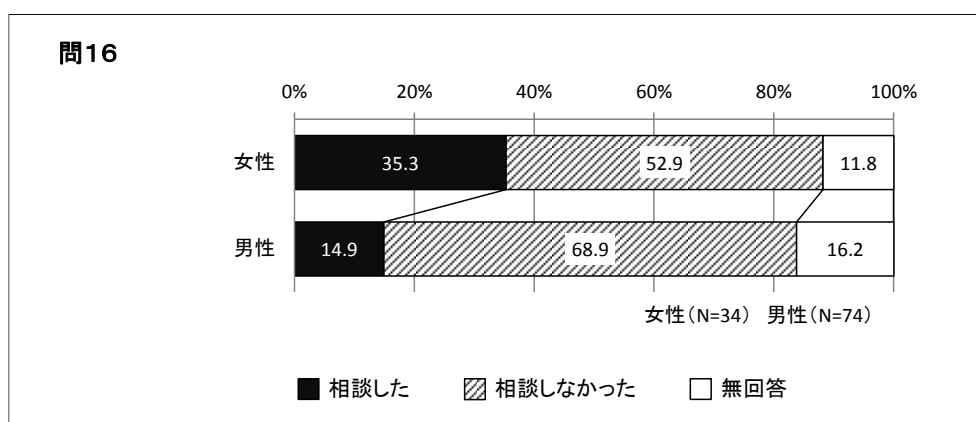


問16 それらの行為をしたり、されたりしたそのあと、相談しましたか。

【問15の「行為の経験」で1つでも「相手にされたことがある」「相手にしたことがある」と回答した人】

女性、男性ともに、「相談しなかった」割合（女性 52.9% 男性 68.9%）が最も高い。

「相談した」割合は女性 35.3%、男性 14.9%であり、女性は男性より 20.4ポイント高い。



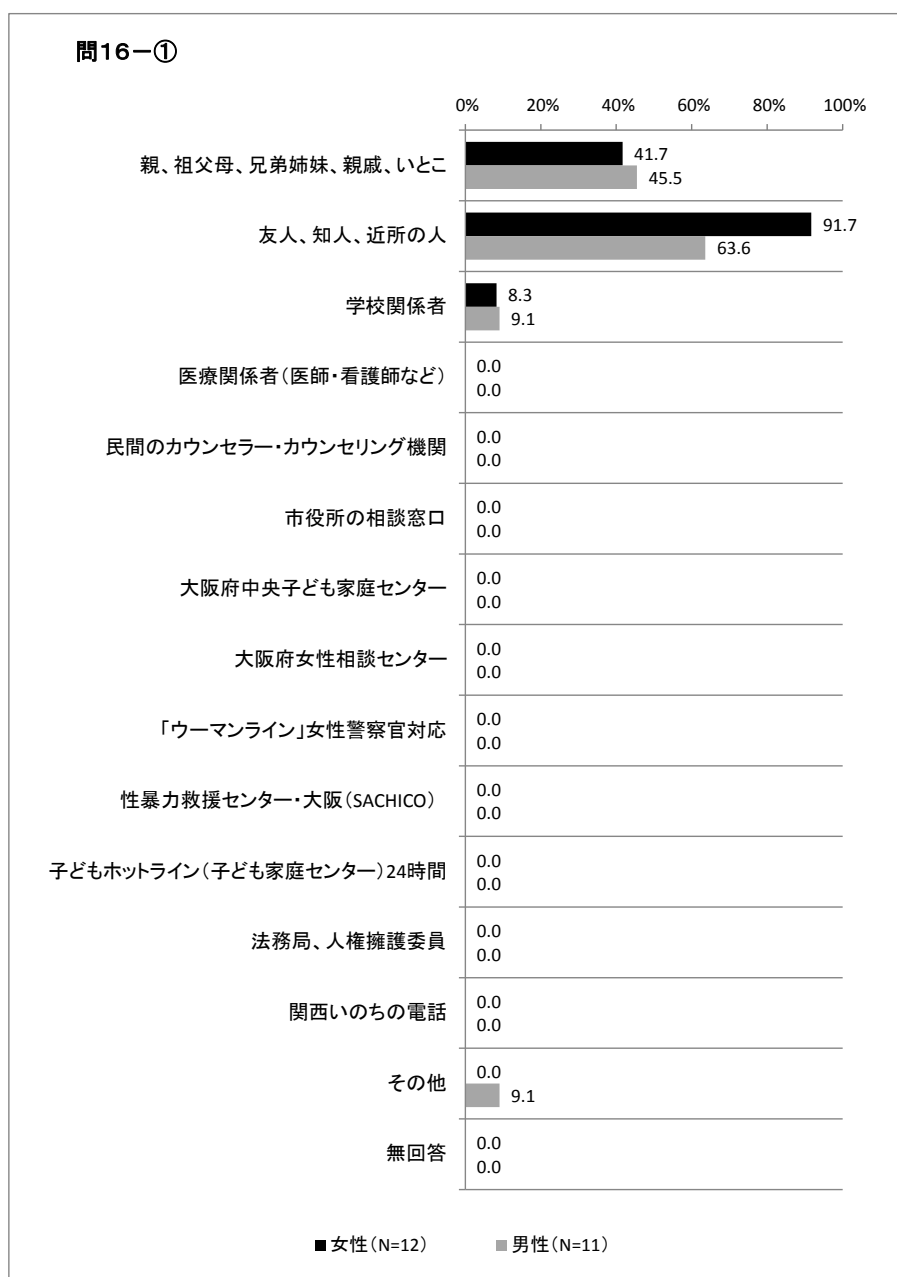


問16-①それは誰(どこ)に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

【問16で「相談した」と回答した人】

女性の相談先は、「友人、知人、近所の人」91.7%、「親、祖父母、兄弟姉妹、親戚、いとこ」41.7%である。

男性の相談先は、「友人、知人、近所の人」63.6%、「親、祖父母、兄弟姉妹、親戚、いとこ」45.5%である。



大学生 問16-① その他回答

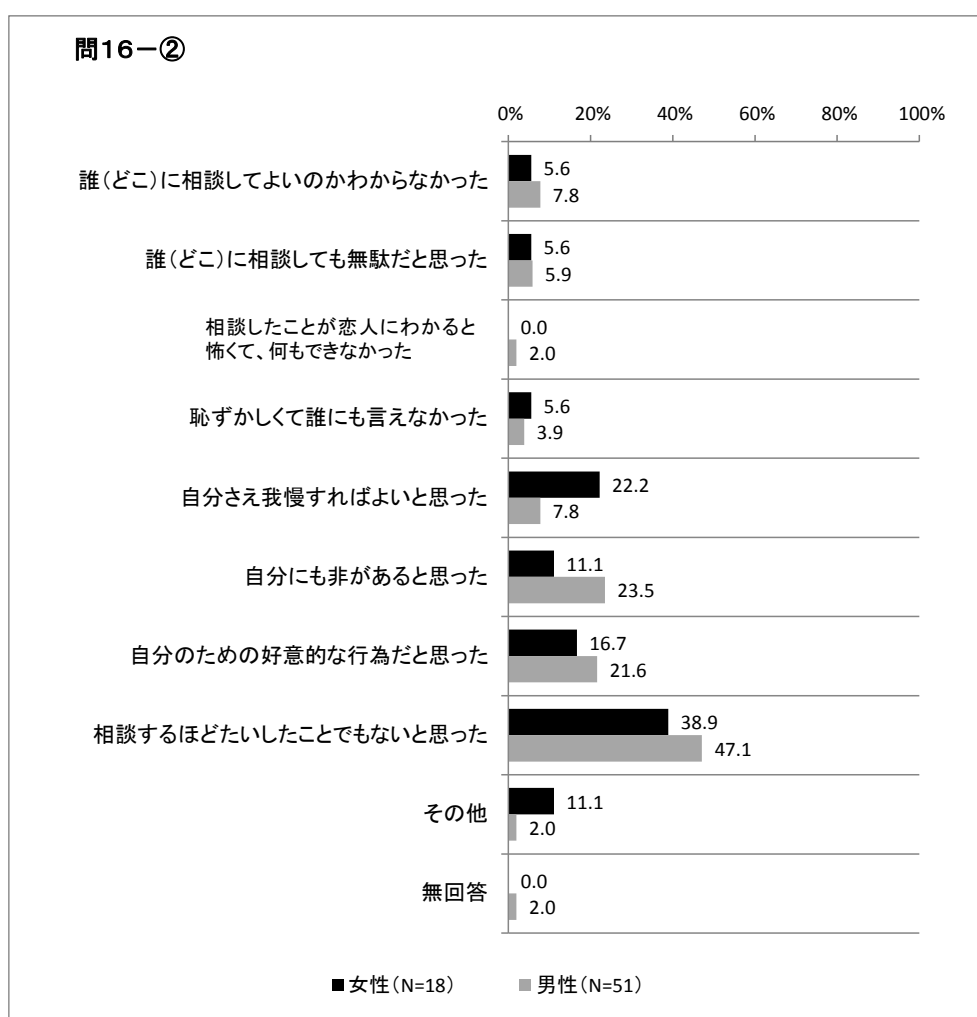
交際相手

問16-② それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

【問16で「相談しなかった」と回答した人】

女性では、「相談するほどたいしたことでもないと思った」38.9%、「自分さえ我慢すればよいと思った」22.2%、「自分のための好意的な行為だと思った」16.7%、「自分にも非があると思った」11.1%である。

男性では、「相談するほどたいしたことでもないと思った」47.1%、「自分にも非があると思った」23.5%、「自分のための好意的な行為だと思った」21.6%である。



大学生 問16-② その他回答

めんどうくさい

## 5. 男女共同参画に関する法律や言葉について

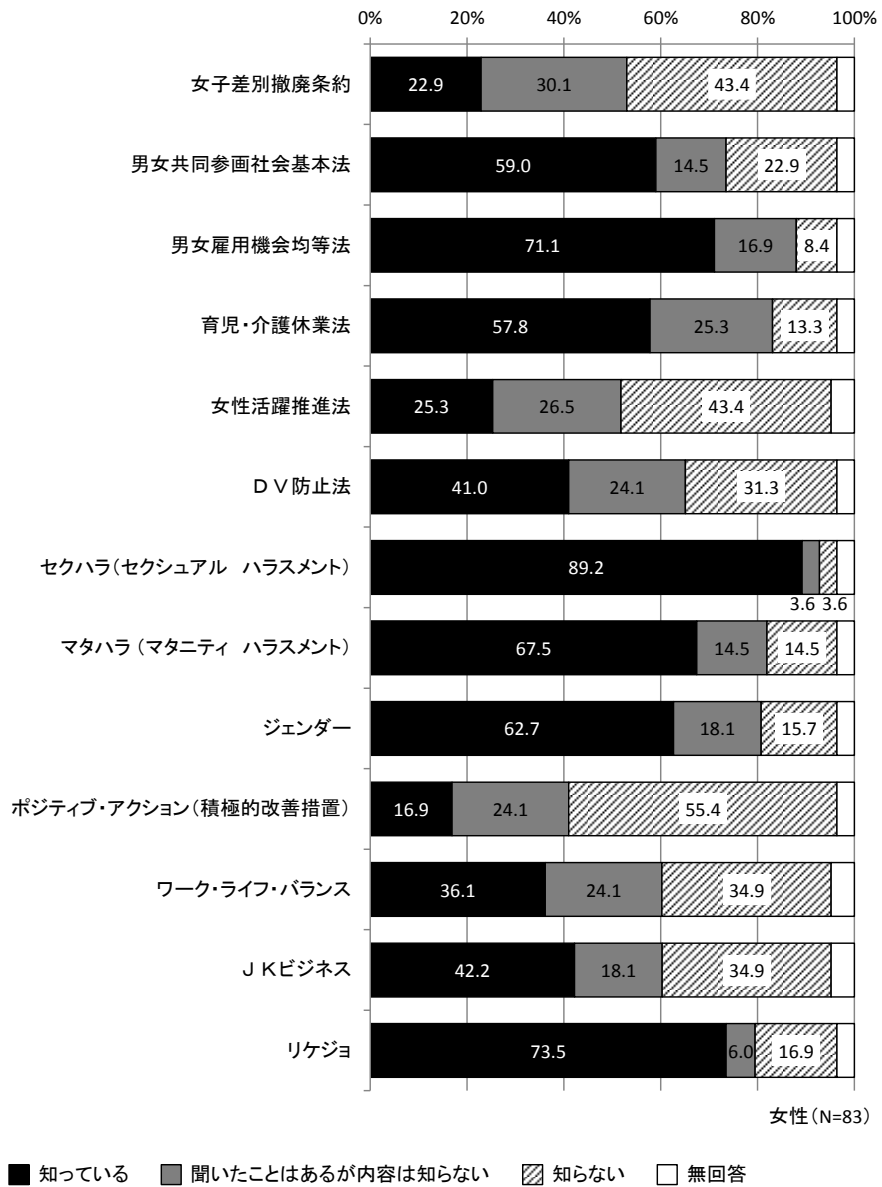
問17 あなたは、次の言葉について知っていますか。

男女共同参画に関する法律や言葉 13 項目についての回答をみると、男女とも 60%以上が『知っている』項目は、「男女雇用機会均等法」女性 71.1% 男性 62.1%、「セクハラ(セクシュアル ハラスメント)」女性 89.2% 男性 87.7%、「リケジョ」女性 73.5% 男性 63.4%である。

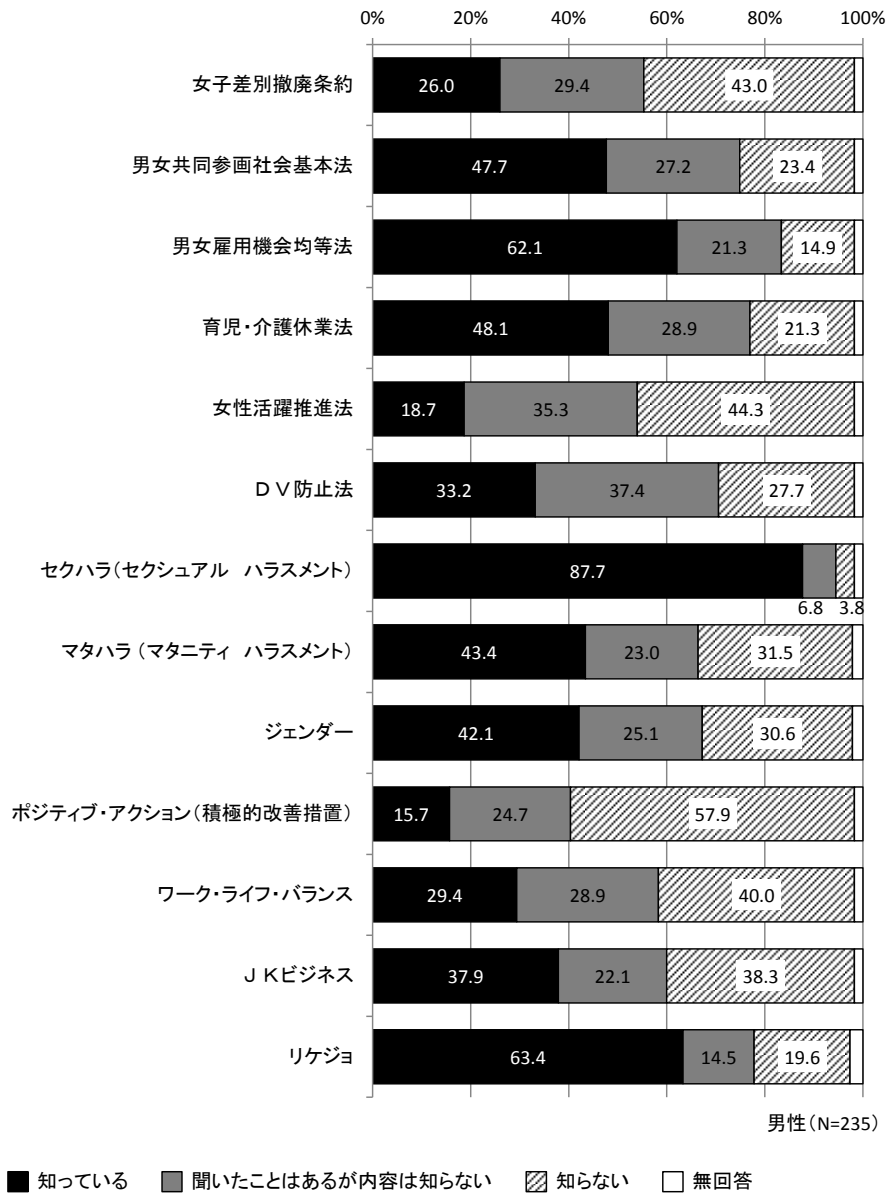
男女とも、『知っている』が 30%未満の項目は、「女子差別撤廃条約」女性 22.9% 男性 26.0%、「女性活躍推進法」女性 25.3% 男性 18.7%、「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」女性 16.9% 男性 15.7%である。

男女別では、女性の方が男性よりも認知率が高い。

問17



問17

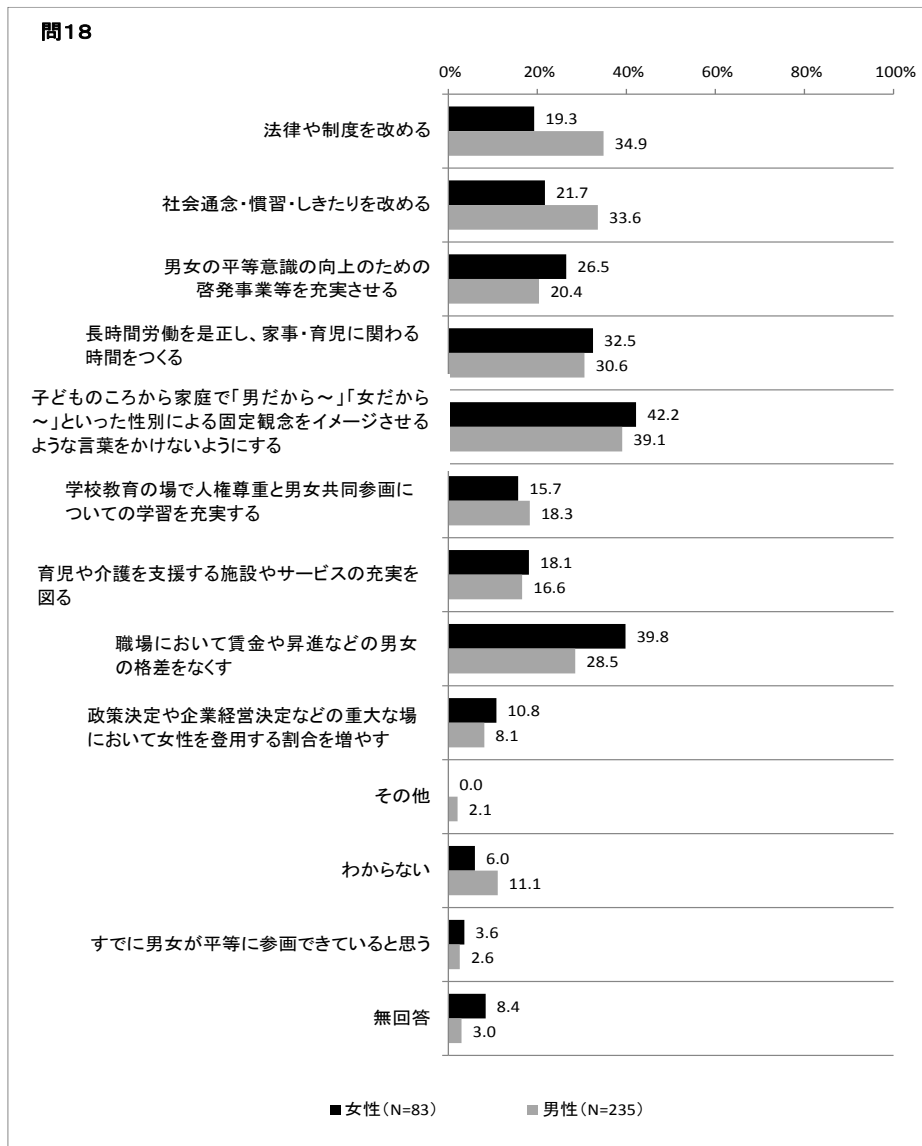


## 6. 男女共同参画の推進

問18 今後、社会のあらゆる分野で男女共同参画を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

女性では、高い順から「子どものころから家庭で「男だから～」「女だから～」といった性別による固定観念をイメージさせるような言葉をかけないようにする」42.2%、「職場において賃金や昇進などの男女の格差をなくす」39.8%、「長時間労働を是正し、家事・育児に関わる時間をつくる」32.5%である。

男性では、高い順から「子どものころから家庭で「男だから～」「女だから～」といった性別による固定観念をイメージさせるような言葉をかけないようにする」39.1%、「法律や制度を改める」34.9%、「社会通念・慣習・しきたりを改める」33.6%、「長時間労働を是正し、家事・育児に関わる時間をつくる」30.6%である。



大学生 問18 その他回答
金を世の中に回して、不自由のない世界
人が行っている職業、仕事、行いに対して「男がやっている」「女がやっている」と対象の人物を男だ女だと区別せずに1人の人間として扱う。「育児を夫がしている」など良し悪しに関わらず男女を分けた紹介をしているようでは平等はまず訪れない
政治家の中で男性議員が女性議員に対して不適切な発言とかするから。そういった所から改善していかなければならないと思います
本人が変わらないとなにも変わらない

## 7. 自由記入

問19 これから社会に出ていくことで、みなさんはさまざまな体験をしてライフステージの変化に直面していくと思います。そこで以下の体験についてみなさんが男性として、または女性として「期待していること」「不安に感じること」はなんですか。

大学生 問19-1 就職で「期待していること」「不安に感じること」
いじめにあわないかが心配です
ブラック企業への就職
育児休暇や育児休暇後の心配
会社は男性に優先採用します
確かに就職などの面では、男性の方が有利なのかもしれない。やはり力が必要な仕事などでは、男女の差で効率が違うのはわかりきっている
差別のない職場で、みんながフォローしあえるところ
産休、育休を取った後に仕事に復帰できるかどうか
私は警察官になりたいと思っているのですが、なってから男じゃないからとか、女だからと言われて甘く見られるのが不安に感じる
自分がやりたいと思う職業に就き、働いていけるかどうか
就職してから職場で仕事ができるか、できないかに不安である。また職場の仲間できちんと交流できるかに不安である
女性を優先するあまり、男性の就職希望者に悪影響が出るのではないか。女性の参画等を積極的に行うのは良いが、最終的には平等・公平な審査によって性別関係なく採用が行われるべきだと思う
職場に女性がおらず、婚期を逃してしまうやもしれない
新入社員の割合を合わせるというバカな政策は出さないでほしい。もともと企業は優秀な人を選ぶだけだ。女性の雇用の問題は、ただ社会的な通念に過ぎない。このようなことは何年もかけてみんなで解決するしかない
大学を卒業したばかりの若い女性より、ちょっと年上の女性は就職のチャンスが少なくて難しいと思います
男しかつけない、女しかつけない仕事がないかどうか
男は働くべき、という考え方が変わることに期待します



男手1つで稼ぐべきなのか、自分の今の能力で出来るかどうか不安
男女共同参画社会・一億総活躍社会が実現したらいいです
男性が多い職場で女性は同等にあつかってもらえるのか
長時間の労働、残業や非正規社員の状態が長続きしないかということが不安

その他31件

大学生 問19-2 結婚で 「期待していること」「不安に感じること」 -
LGBTの偏見をなくし、結婚=男女しかできないなどの古風な考えをやめ、多様な社会にするべき
ある地域は、女性の単身あるいは30代、まだ結婚していないことについてきびしい、あるいはゆるさない態度を持っている
お互いが幸せでなければならない
たぶん出来ないから不安しかない
たまに祖父から「長男やから結婚しろ」とか言われるので、そういうことを考えると不安です
できるだけ若く結婚したいが、それが本当にできるのか
まず出来るかどうか…
学部の関係上、女性と出会う機会や話す機会が少なく、社会全体から見て出遅れてしまい、結婚できるかが不安
期待している事は、地域の支援（子育ての助成金など）が整っている事で、不安な事は、離婚した時の戸籍のうつし替えなどの知識が無い事である
結婚したら仕事の責任は全部男の方に押しつけた
結婚してパートナーとうまくやっていけるかどうかがとても不安
結婚については、恋人とよく話し合ってお互いの内面まで、より理解してする方がいいと思います
結婚をしていないことが、だめみたいな社会に不安を感じる。同性愛者どうしの結婚なども考えたほうがいいと思う
今の彼氏とは、大学に入ってすぐお付き合いさせていただいて、結婚をこの人としたと思うほどの優しくて思いやりがあるけど、一緒に暮らし始めると考えがちがうくてケンカが増えそうでこわい

若年層でも式が挙げられるくらいの値段設定にしてほしい、または廃止。同性や年齢層での男女の差別を無くしてほしい
奨学金が足枷になると思う
貯金があるかどうか、収入が安定するかどうか
二人で家庭を築きたい

その他20件

大学生 問19-3 出産・育児で「期待していること」「不安に感じること」
育児休暇を取ることで、仕事での評価等が下がるのではという不安はある。法律ではそうならないことを前提としているが、実際には不適切が行われているのではないかと心配している
お互いに助け合って頭が良い子とかに育てるよりも、社会で必要とされる愛される育児をしたい
育児は取りたいので、夫にも同じようにしてほしい
育児に関することでケンカしたりするかもしれない不安
育児休業中の収入の減少
期待していることは、新しい命が夫婦の間で出来て一緒に生活をしていくこと。不安なことは、病院の受け入れや地域の医療制度について把握していないこと
共働きをしているときの保育園などの待機児童問題
協力してできるように期待
国は出産・育児の家庭への見直しをするべき。今のままでは子供を産みたくても将来の不安で産めない家庭ばかりだと思う。財政をもう一度見直すことがいいと思う
最近では男性の育児休日などもあるようですが、まだ男性が育児休日をとるなどという行為は他者から見ると不必要がられるかもしれない。まだまだ認知が必要なのかもしれない
市の支援がしっかりしている
出産はしないが育児に関しては、男性も積極的に参加する義務がある。必ず夫婦が同じ割合ですることではなく、働く人は3～4割でもよいと思う。重要なのは夫婦二人が、お互い少ない割合で必ず参加することだ
出産後の職場女性でも在学女性でも産休をしてほしい。社会から女性に育児サポートをもっと増やして欲しい
女性だけの仕事ではない
「男だから育児休業しなくてもいい」と言われると考えると少し不安です
僕は男なので、男性の意見としては、出産に関しては男に全ての責任があると思って考えるべきだと思います。母体のこと、生まれてくる子供のこと、男は見守

ることしかできないからこそ、出産後の育児・母体の心身のサポート、それができるかどうかを考えて行動するべきだと思います
男で育児休業をとった場合、社会などから何かいわれないかどうか
夫、妻の両方が同じように育児に時間をかけることができるような職場環境

その他 19 件

